

中区 区域まちづくり事業 効果検証シート

事業名称		実施主体			
中区子育て支援啓発事業		子育て支援課			
事業目的	事業内容	活動指標	R1	R2	R3
子育て世帯に対して、「中区子育てマップ」を配布することで、地域にある子育て資源（サークル・サロン等）の情報提供をおこなうとともに、区役所をはじめとするさまざまな相談機関を案内することで誰もが安心して子育てできる地域づくりをめざす。	未就園児のいる家庭に乳幼児全戸訪問事業をはじめ、子育て支援課の窓口や保健センターの検診等でマップを用いて、子育て情報を紹介する。マップには、認定こども園や幼稚園、保育所等保育施設や遊び場（子育てサークル・サロン、子育てひろば等）、子育て支援課の情報を掲載する。マップ内に写真や二次元コードを掲載し、子育て資源の雰囲気や伝え、また詳細な情報へすぐアクセスできるような工夫をこらす。	配布部数	2500枚	2500枚	2000枚
		配布箇所数	62箇所	62箇所	62箇所
		協力団体数	70団体	67団体	71団体
①妥当性	②協働の視点	③インパクト	④効率性		
◎ 中区内で安心して子育てができるよう、子育て情報を整理し発信すること、中区全域が見渡せる地図上に子育て資源の場所を示すことは、子育て支援環境を整備することであり、区が事業を実施する妥当性が高い。	○ 保護者と子どもの写真を、子育てサークル・サロンや子育てひろば等、関係機関の協力を得て、マップに掲載。他にも、中区内の地域の子育て支援者、こども園、幼稚園、保育所等の関係機関と連携を図った。	◎ 今年度、子育てマップを一から見直し、当課オリジナルのデザインを作成した。社会情勢を踏まえ、二次元コードを積極的に活用し、マップから最新の情報が手に入るよう、当課のHPや他の子育て支援情報につながるよう工夫した。	◎ 今年度から、育児総合ガイドブックいきいき堺っ子から地図面や遊び場の詳しい情報掲載がなくなったため、中区全体の子育て資源が見渡せるマップは他にはない。		
⑤自立発展性	総合評価				
- オリジナルデザインでマップを作成し、それを広報等に掲載することで、子育て支援課の事業を周知し、市民が地域に愛着を持てるような工夫をしている。子育て支援資源の情報のとりまとめや、市の子育て情報や施設などを掲載した地図を作成することは、行政が主体となって実施すべき事業である。	○ 子育てマップを作成し3年目となるため、中区独自のキャラクターを作成し、大幅リニューアルを実施した。転入世帯には児童手当の手続きに来課する際、情報提供として手渡しし、孤立化させない子育て支援につながっている。新型コロナウイルスの影響で対面ができない中、前年度に引き続き「こんにちは赤ちゃん訪問事業」を通じて、訪問グッズに子育てマップを同封することで、新生児がいる世帯に対して子育て情報を提供することができた。				
今後の方向性（課題、改善提案等）					
拡充 継続 見直し 廃止	デジタル化と共存するため、次年度のマップにおいては、引き続き最新の情報を届けられるよう、子育て応援アプリの紹介や堺市ホームページなど二次元コードも積極的に活用していく。				